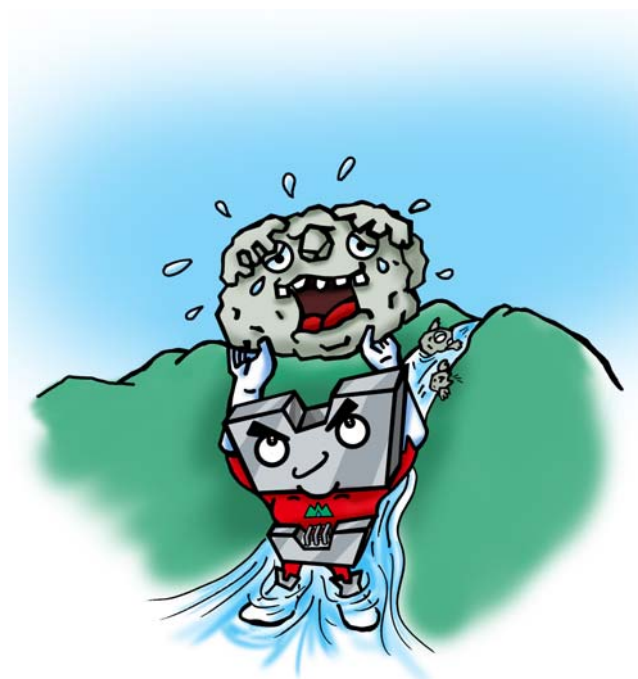


## 1 解説ポイント

1. 降雨が続くと斜面崩落を引き起こす。
2. 斜面崩落により河道閉塞となり、上流側に家屋があれば浸水被害となる。河道閉塞が決壊すれば土石流を引き起こし、下流域は土石流被害となる。
3. 砂防堰堤がある場合とない場合の2回実演することで砂防堰堤の効果の説明する。
4. 土石流で形成された扇状地の上に、現在の人々が暮らしていることを説明する。
5. 土石流が下流域に堆積した状況を見せることで、土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)と土砂災害警戒区域(イエローゾーン)をイメージできるように説明する。
6. 土石流が流下しているその瞬間に「これが土石流です」と説明することで、見ている方々の目線を集中させて臨場感を出す。



## 2 実施事例



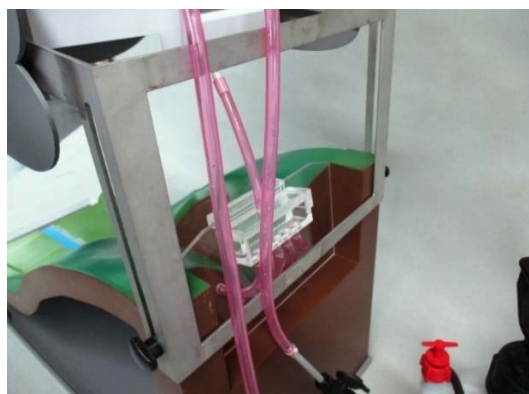
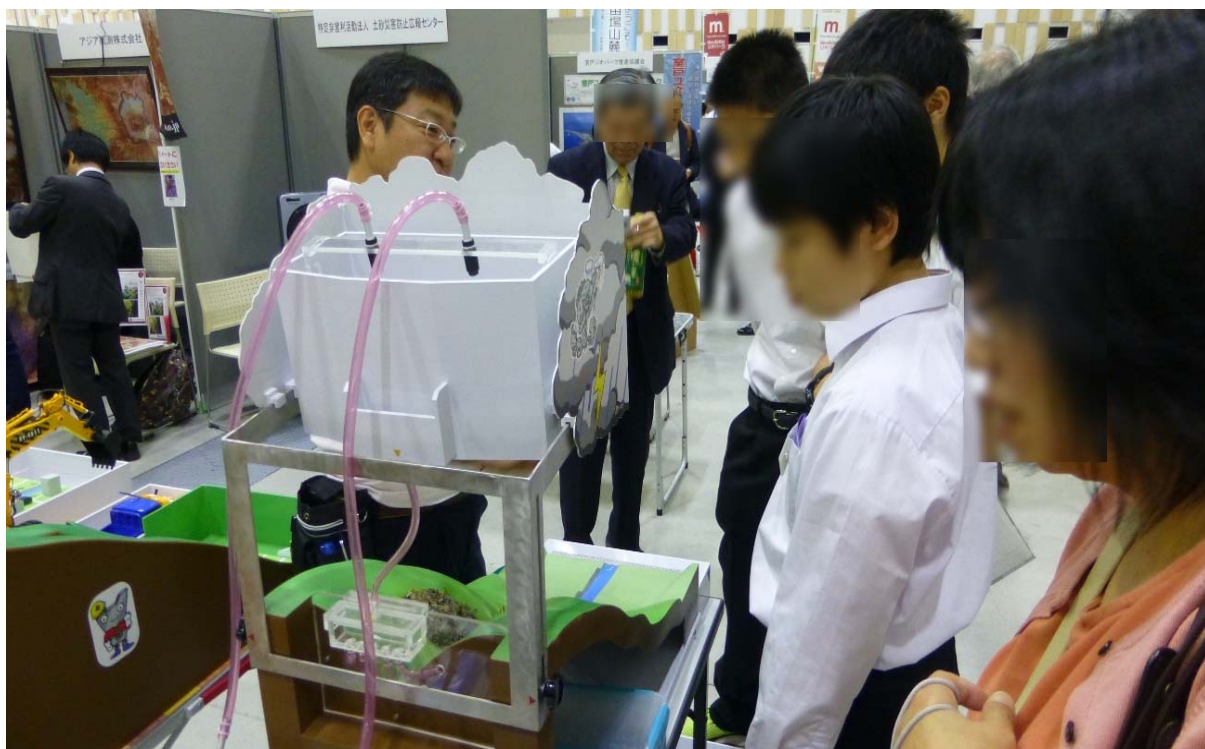
- ・会議用テーブルに土石流ミニ実演装置を置く。
- ・土砂受けケースにホースをつなぎ、水が足下の水受けケースに流れ落ちるように設置する。

この事例では、他の模型との組み合わせで設営しました。



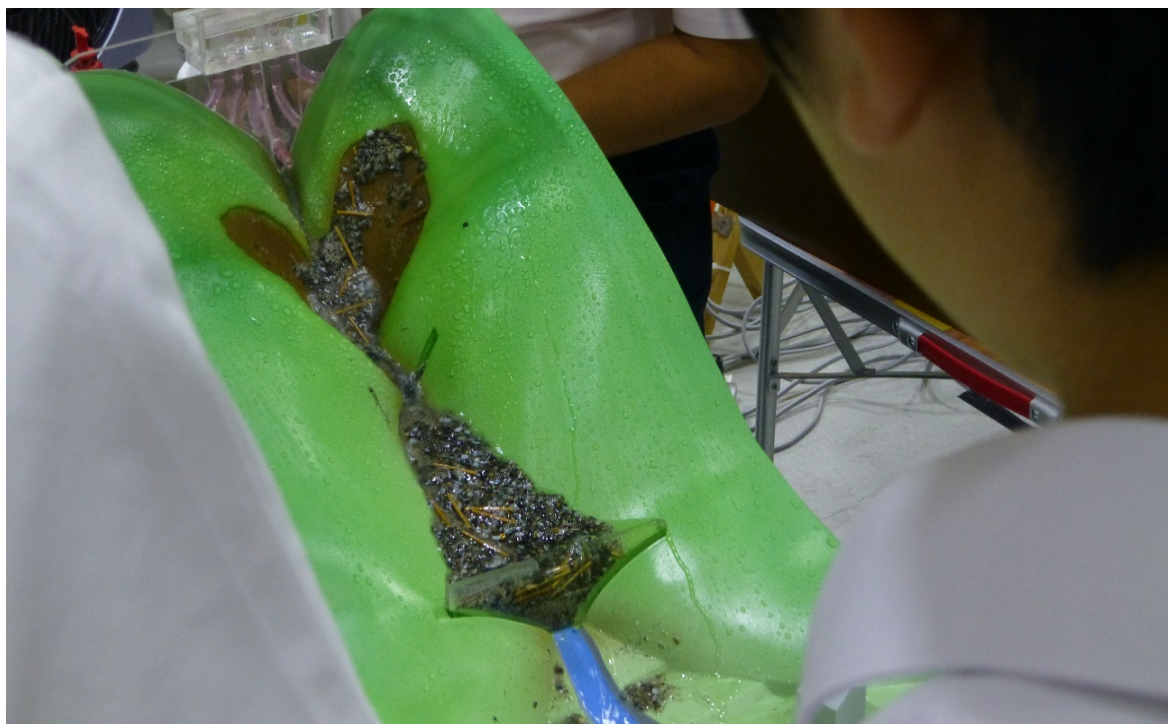
左から、土石流模型ミニ実演装置、土石流キャッチャー、土石流対策模型、急傾斜地崩壊対策模型、地すべり対策模型、火山噴火実験装置です。

## ●装置後部のホース類等の設置状況



セット状況

●砂防堰堤のある場合(下流部のみ)



●砂防堰堤のある場合(上流部と下流部の両方)



## ●砂防堰堤のない場合

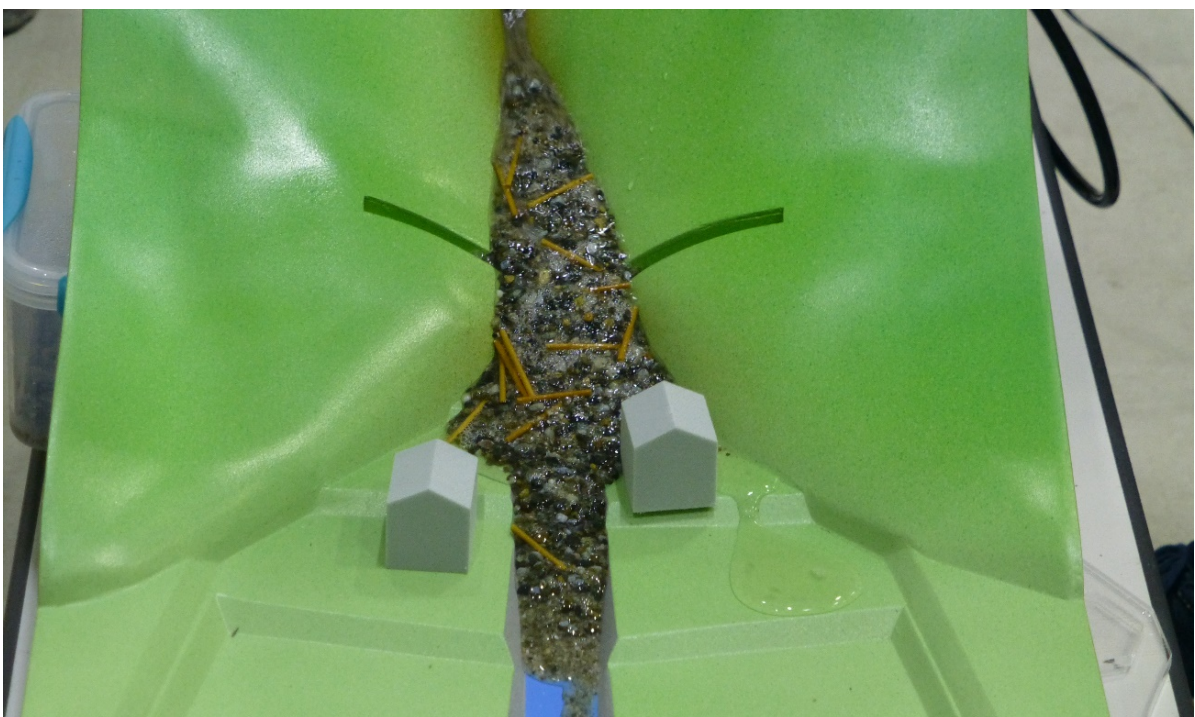
雨の降らせ方をポンプのトリガーで調節します。

土砂が崩壊し始めたらいったん雨を止め河道閉塞(天然ダム状態)させます。(ここで河道閉塞の状況を説明します。)

再度、雨を降らせると土石流が発生した状況となります。



土石流が下流域に被害を及ぼす説明をします。



※家模型は付属していませんので、他の模型を使用してください。

土石流の発生を続けることで扇状地が形成されます。(扇状地ができる仕組みを説明します。)

